

健康データの生かし方

OCHIS 運行管理に活用



NPO法人(特定非営利活動法人)ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長、大阪大学名誉

教授)は5月22日、健康管理や安全に関する生きた情報交換を目的とする「両輪会」を会場とウェブでのハイブリッド形式で開催した。「健康情報(データ)の生かし方」をテーマに保

「取得したデータの活用が求められている」と作本副理事長

健師や運送会社の担当者などの講演があり、参加者は運行管理やハイリスク者への対応などへのデータの活用法に耳を傾けた。

作本貞子副理事長は「物流業界ではDX(デジタルトランスフォーメーション)化が注目されている。取得したデータをどのように活用していくのが求められる時代になっていることから今回のテーマを決めた。取り組み事例の情報提供もあるので、ぜひ生かしていただきたい」とあいさつ。

第一部では、作本氏が「運行管理者が点呼時に行う健康確認」を、保健師の安島なつき氏は「健診機関とナビシステムの連携」をテーマにそれぞれ解説した。

三和運輸機工の中山学常

務が「治療継続を目指す」た、わが社のSAS(睡眠時無呼吸症候群)対策」をテーマに、SASと診断された社員の持続陽圧呼吸療法(CPAP)、マウスピースを使用した治療の現状と課題について報告した。

また、トレンディ茨城の谷萩寛子取締役は「健康経営プライト取得までの取り組みと健康増進」と題して講演。健康経営に取り組みきっかけと腰痛体操や歯の健康を学ぶ健康教室の実施など健康サポートについて説明した。

第二部では、5年ぶりに会場開催でのグループディスカッションが復活し、「健康増進のすすめ方」をテーマに各グループで討議と発表を行った。

(中川美咲)